

いしのみき 社協だより

編集と発行 社会福祉法人 石巻社会福祉協議会

令和8年5月20日

第106号

〒986-0825 石巻市穀町15-2

TEL 0225 (96) 5290(代)

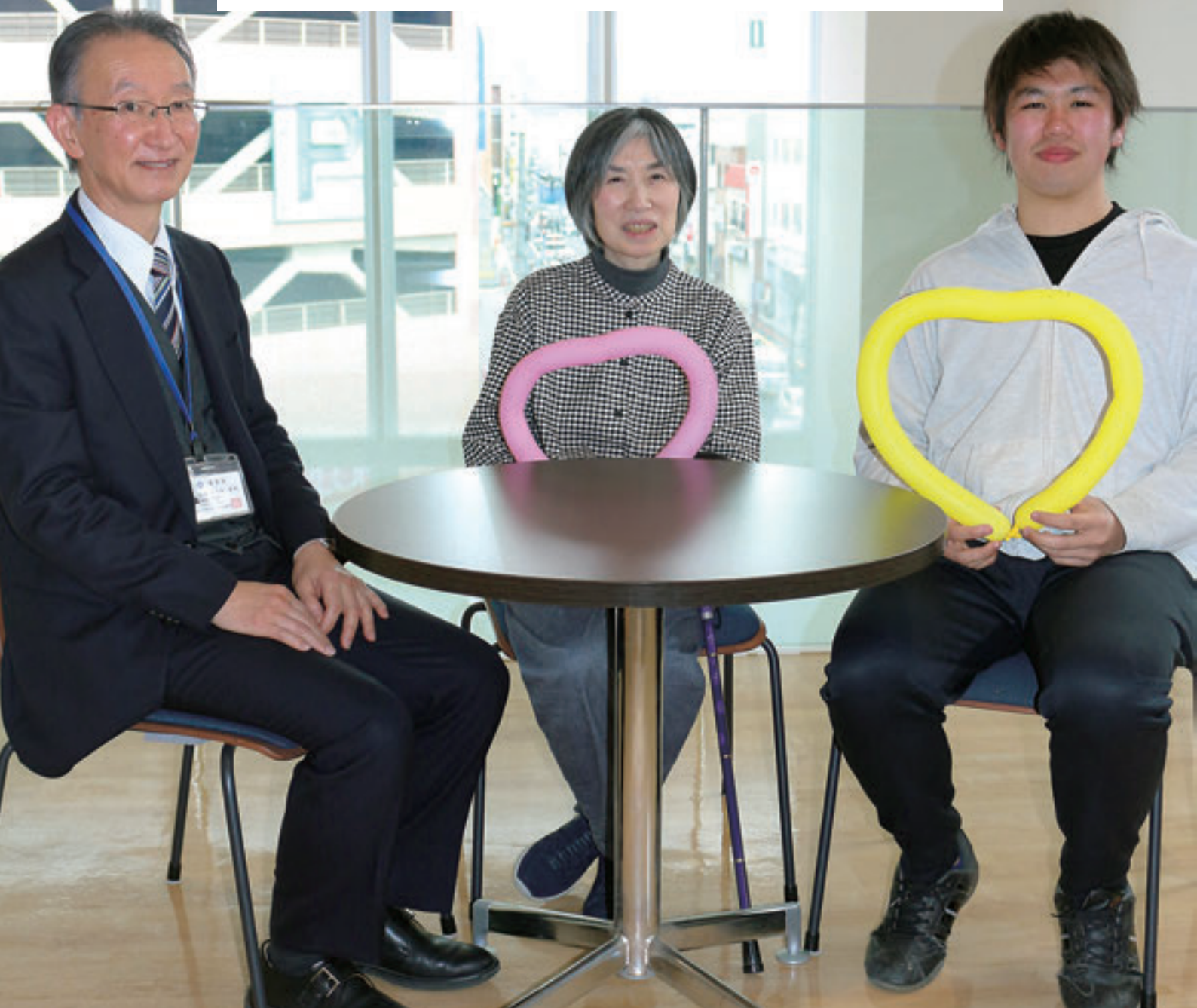
FAX 0225 (96) 5223

<https://www.ishinomaki-shakyo.or.jp>



特集

誰もが支える・支えられる “地域共生”社会を目指して



この広報は、みなさまからの会費と赤い羽根共同募金配分金の一部により発行しています。



石巻市社会福祉協議会 会員会費ご協力のお願い



社協会費は、地域における福祉活動である「ボランティア、地域サロン、子育てサークル等の活動」の支援また、介護が必要な方々への「紙おむつ等購入助成事業」や「福祉学習」等を実施するための重要な財源とさせていただいております。

このような地域の支え合いを支援する財源にもなっていることをご理解いただき、令和8年度の社協会費につきまして、ぜひご協力を賜りますようお願い申し上げます。

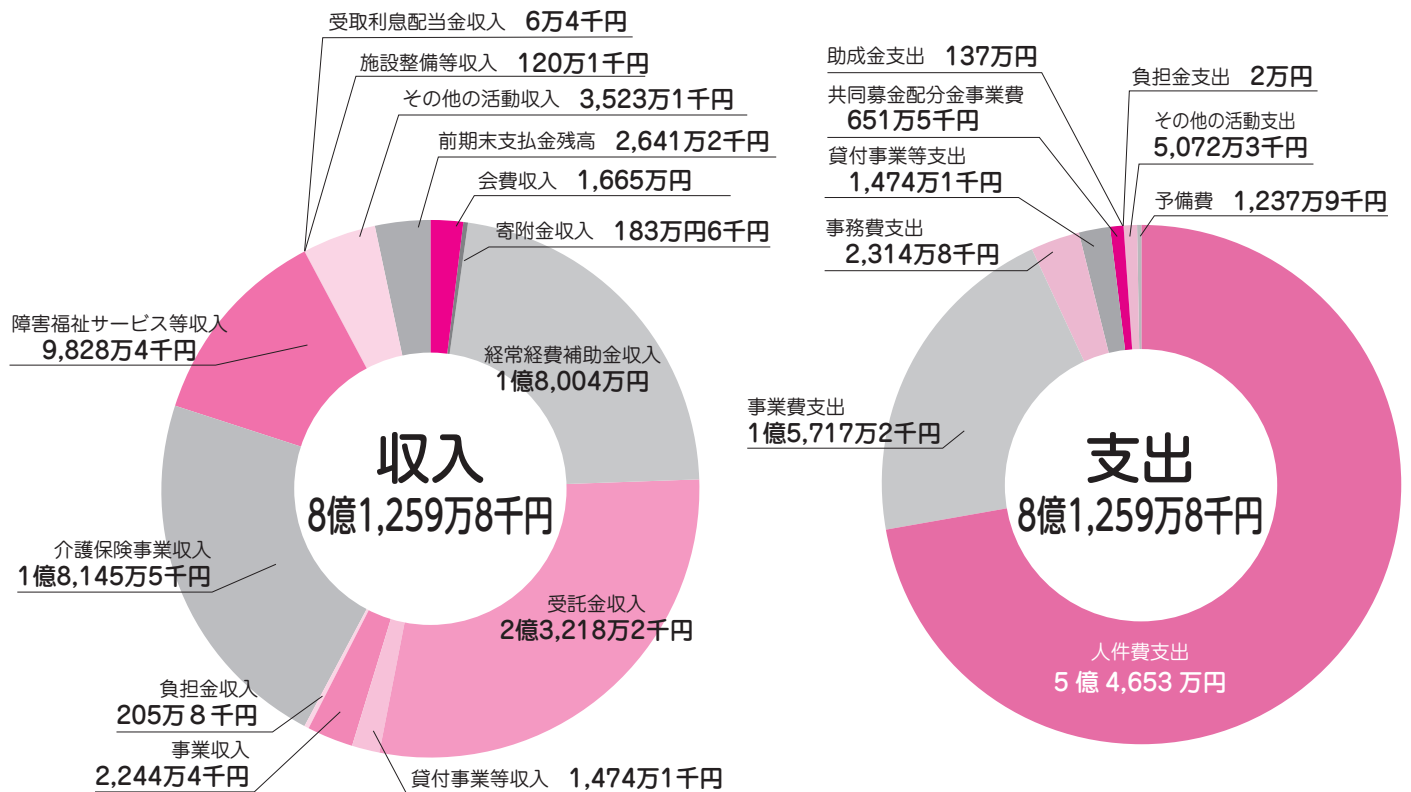
- 一般会員(世帯) 500円
- 賛助会員(個人、団体) 1口 1,000円(1口以上)
- 特別会員(事業所、団体) 1口 1,000円(3口以上)

※会費の納入は、任意であり、強制ではございませんが、ご協力の程、よろしくお願いいたします。



社協の財源

地域のみなさまからの会費や寄附金、共同募金配分金のほか、活動の重要性・公共性のある事業については、国、県、市などからの補助金・委託金によって、地域福祉活動の財源が賚られています。



社協だより発行回数 変更のお知らせ

広報誌「いしのまき社協だより」の発行回数を令和8年度より下記のとおり変更いたします。
 《変更前》5月・7月・9月・11月・1月・3月(年6回)
 《変更後》5月・7月・9月・1月(年4回)

こんな相談が寄せられています 社協って どんなところ？

石巻市社協では誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりに向けて、地域の福祉に関する様々な取り組みを行っています。今回は石巻市社協に寄せられるご相談とあわせて、主な取り組みをご紹介します。

生活上の困りごとがある…

生活が大変…
どうしたらいいの？

悩んでいることが
あるけど、どこに
相談すればいいの？



生活相談

生活上の困りごとをお聴きし、何ができるか一緒に考えます。また、必要に応じて関係機関にお繋ぎします。

貸付相談

石巻市社協には悩みを相談できる貸付担当の職員がいます。
※貸付の申請には一定の条件があります。

福祉について知りたい! 学びたい!

福祉の勉強を
したい

地域での困りごと
どうしたらいいの？



福祉学習(出前講座)

福祉に関する講話や体験学習(車椅子や白杖、手話等)があります。

座談会

みなさんと一緒に地域の課題等を話し合います。支え合いのきっかけづくりに!

集いの場がほしい

地域の中で交流
できるサロンを
始めたい

一人の時間が多くて
寂しい
地域の活動に
参加したい



場づくり支援

サロンの立ち上げ等、活動を始める際のサポートをします。

場の紹介

詳しくお話をお聴きし、地域で行われている活動・地域にある集いの場にお繋ぎします。

ボランティアの相談をしたい!

誰かのために
自分のできる活動
ってあるの？

ボランティアを
お願いしたい



ボランティアセンター

『ボランティアをしたい人』と『ボランティアを求める人』をマッチングします。また、実現したいボランティア活動を一緒に考えます。

気軽に
社協へご相談
ください!

地域活動や生活に関する悩み事など気軽に石巻市社協にご相談ください。

他にもたくさん!

石巻市社協の取り組みはHPをご覧ください。



地域をつなぐ、新しいカタチ

～世代と分野を超えて考える『地域共生社会』～

高齢者・障害者・子どもといった分野ごとの支援から、地域全体で支え合う『地域共生社会』へ。制度だけでは解決できない課題が増える今、私たちはどのようにつなぎ、つながるべきか立場の異なる3名が、これからの地域福祉のあり方を語り合いました。



みたく 朗子さん
障害当事者団体『障がい者ベース石巻によつきり団』代表
震災後に団体を立ち上げ、当事者同士の支え合いを中心に活動。



ささき とよあき 佐々木 豊明
石巻市社協 常務理事
地域福祉の推進を担う社協として地域共生社会の実現に向けた取り組みを進めている。

それぞれの立場から 見える地域との関わり

佐々木 本日は『社協だより』の特集として、世代や立場の異なる皆さんにお集まりいただきました。

高齢者、障害者、子どもといった分野ごとの支援から、地域全体で支え合う『地域共生社会』への転換が求められている今、それぞれの現場からどのように地域が見えているのかを伺いたいと思います。まずは自己紹介と現在の活動について教えてください。

箕田 私は障害当事者団体『障がい者ベース石巻によつきり団』の代表をしています。東日本大震災の後、地域の障害当事者やご家族に声を掛けて立ち上げた団体です。身体・知的・精神といった障害の種別や制度の枠にとらわれず『まずは集まって話そう、つながろう』という思いで活動を続けてきました。

震災当時は、同じ立場の人同士が顔を合わせること自体が大きな支えになっていました。年が経つにつれて会

見えにくい

『地域福祉』と社協の役割

佐々木 お二人のお話から『つながり』の重要性が見えてきました。その中で社協の存在はどのように映っていますか？

箕田 私が社協に関わったのは、20代の頃に点訳ボランティアの講座を受けたときが最初でした。ただ、その後も含めて、社協が地域の中でどんな役割を担っているのかは、

正直あまり見えていなかったという印象があります。もっといろいろな人が気軽に関わられる、開かれた場所であってほしいと思います。

勝亦 私は最近まで『社協』という言葉自体を知りませんでした。福祉に関わっていない若い世代にとっては、あまり身近な存在ではないと思いますし『自分とは関係ない場所』と感じている人も多いと思います。

佐々木 確かに地域福祉は対象がとて幅広く、活動内容も多岐にわたるため『何をしている組織なのか分かりにくい』という声はよく聞かれます。

しかし本来は、制度だけでは解決できない課題を地域の中から拾い上げ、人と人、団体と団体をつないでいく役割を担っています。

今後は『相談する場所』だけでなく『何かやりたい人が集まる場所』としての機能も求められていると感じています。

制度の進展を 変わる『支え合い』のかたち

佐々木 福祉制度の変化についてもお聞きしたいと思いま

して今後の展望についてお聞かせ願います。

箕田 分野ごとに分かれている活動をつなぐ『横のネットワーク』が必要だと思います。同じ地域で活動していても、お互いのことを知らないケースが多いんです。

社協には、そうした人や団体をつなぎ、新しい関係を生み出すコーディネーターとしての役割を期待しています。

勝亦 若い世代に向けた発信も大切だと思います。SNSなども活用して『ちよつと関わってみたい』と思えるような入口を増やしてほしいです。

自分としては、スポーツや体を動かすイベントを通じて、年齢や立場に関係なく、誰もが一緒に楽しめる場をつくっていきたくと思っています。

佐々木 ありがとうございます。誰もが支えられる側にも支えられる側にもなり得る関係の中で、それぞれが役割を持ちながら関わり合う社会。それが『地域共生社会』の姿だと感じます。



かつまた はやと 勝亦 隼士さん
石巻市子どもセンター『らいつ』スタッフ
子どもの居場所づくりに関わりながら、多世代交流の場づくりに取り組む。

地域共生社会に 向けて

佐々木 最後に、これからの地域福祉や社協への期待、そ



特集

対談

す。箕田さんの若い頃と比べて、現在はどのように変わりましたか？

箕田 昔は今のようないくつかの制度が整っていませんでした。自分たちで学生ボランティアを探して生活のサポートしてもらっていました。学校に行くとチャリンを配ったり、声をかけたりして仲間を集めていました。そうして出会った人たちと一緒に、新幹線で遠くまで出かけたり、さまざまな経験を共有したりしていました。大変なことも多かったですが、その分、人と人の距離がとても近く、支え合っている実感がありました。

佐々木 今とはずいぶん違う関係性ですね。

箕田 はい。今は制度が整って安心して生活できるように

地域とのつながりの 変化とこれから

佐々木 地域との関わりという点では、町内会や自治会などの活動についてはいかがでしょうか。

勝亦 正直なところ、これまで参加したことはありません。自分の周りでも関わっている人は少ないと思います。ただ、関心がないわけではなくて『会議に出る』役員にな

員の高齢化や体調の変化もあり、以前のように頻繁に集まることが難しくなっています。だからこそ今は、当事者同士のつながりだけでなく、地域の中でさまざまな人とどう関係を築いていくかが重要な課題だと感じています。

勝亦 私は『石巻市子どもセンターらいつ』でアルバイトスタッフとして働いています。中学3年生のときにこの場所ができて、最初は利用者として通っていましたが、高校生の頃からボランティアとして関わるようになりました。現在はスタッフとして子どもたちと関わっています。

強い結びつきでなくても、日頃からお互いの存在を気にかけるような『ゆるやかな関係性』が、とても大切だと感じました。

佐々木 そうした中で、つながりの必要性を感じる場面はありますか？

箕田 やはり震災の時ですね。普段から『誰がどこにいるか』を知っていたからこそ、声を掛け合って避難できたケースが多くありました。

る』といった形だとハードルが高いだけで、イベントや楽しい活動であれば参加したいと思う人は多いと思います。

箕田 私も今はあまり関わっていませんが、以前はもっと地域のつながりが身近にあったように思います。子ども会や地域行事など、自然と顔を合わせる機会がありました。

現在は町内会の高齢化や担い手不足も進んでいて、地域のつながり自体が弱くなっている印象があります。



あなたの街の七福人 ～七つの地区で福祉に関わる人～

『地域に根ざし、次の世代へ想いをつなぐ』

渡波地区在住の内海さんは、犯罪や非行のない明るい地域社会を目指し、現在更生保護女性会の会長として見守りや啓発活動に取り組んでいます。

内海さんは35歳の時に民生委員となり、3期にわたり地域に寄り添ってきました。活動のきっかけは、先輩からの温かなお誘いの言葉でした。

更生保護女性会は、地域に根ざしたボランティア団体として、地域の中で非行防止や立ち直り支援、子育て活動などを目的に、声かけ運動や広報活動、施設訪問、子どもたちへのあいさつ運動などを行っており、誰もが安心して暮らせる地域づくりを支えています。

東日本大震災で被災され、小学校の避難所での生活を経験。その中で高齢者のお世話などに

自然と関わるようになり、「誰かのために動くことで、自分の心も保たれた」と振り返ります。こうした「おせっかい」ともいえる関わりが、現在の更生保護活動の原点となっています。

前会長の想いを引き継ぎ、少年院などの矯正施設への訪問でおはぎを作り、院生と会食をし、心の交流を大切に活動も続けています。院生から届く感謝の手紙は大きな励みとなり、活動を続ける力になっています。

今後は中高生への啓発活動にも力を入れ、地域全体で支え合う輪をさらに広げていきたいと話されます。

「地域のつながりや支え合いが大切、それを次の世代へつないでいきたい」その言葉には、地域とともに歩んできた想いが込められていました。

渡波地区



うつみ みなこ
内海 美奈子さん

『また来てみよっかな～がちょうどいい』

蛇田地区



あ～くる地域子ども食堂

毎月最終土曜日、蛇田地区にある住宅街の一角で、子どもから大人まで、誰でも参加

できる地域食堂が開催されています。食堂の名前は「あ～くる地域こども食堂」。代表の高橋美希子さんの「子どもたちの輪が広がって欲しい」との思いを込めて名付けてくれたそうです。

活動を始めたきっかけは、自身の子育て経験から、誰かにごはんをつくってもらえるありがたさを実感したから。保育園で管理栄養士として働く中で、自分の得意を活かして喜んでもらえる居場所をつくりたいと思い、令和7年7月に食堂を立ち上げました。当初は自宅のリビングを開放していましたが、徐々に参加者が増え、協力施設である『石巻市かもめ学園（障害を持つ子どもたちが通う施設）』を現

在、会場として使わせてもらっています。

料金は一食200円。「元は取れなくてもいい。少しでも気軽に食べに来てほしい」という思いで設定した、とのことでした。

食堂当日は、子ども、保護者、地域の高齢者がごちゃ混ぜになり、食事を楽しまます。子どもたちは初対面でもすぐに打ち解けて一緒に遊び、それをおとなたちがほほえましく眺める。そんな光景を見ると、障害のあるなしや年齢の壁なんてとても小さなことのように思えてきます。

この食堂を「また来てみよっかなと思える、ふらっと立ち寄れる居場所にしていきたい」と話す高橋さん。食材提供や当日運営に協力してくれる方も絶賛募集中とのことでした。

ボランティアセンター通信

『協力する』

災害が起きた際には、多様な団体や地域住民、関係機関が連携し、被災者を支える体制づくりが求められます。また、大規模災害の場合は被害が広範囲かつ複雑化するため、それぞれの専門性を持ち寄る『協働』が不可欠となります。

石巻市社協では、令和8年3月に災害ボランティアセンター運営研修を実施しました。普段から顔の見える関係づくりや連携体制の強化を図るべく、民生委員・児童委員や災害ボランティア登録者、関係機関が参加されました。

地域全体で取り組む『支え合い』の『想い』に今後ともご協力をお願いします。

『新たな取り組み』



災害ボランティアセンター

参加者の声

- ボランティアとのマッチングが難しかったが受付や活動の説明は出来そうだったと思った(災害ボランティア登録者)
- 繰り返し訓練することで今後の課題が見えてくると思った(災害ボランティア登録者)
- ニーズを拾うことは普段の活動と同じで自分たちでもできると思った(民生委員・児童委員)
- それぞれの立場で互いに協働することの必要性を再確認できた(社協職員)
- 地域の方々の力を借りられることがとても心強く感じた(社協職員)

お知らせ

第1回ボランティア養成講座～はじめてのレクリエーション～

レクリエーションの技術を学び、ボランティア活動や地域福祉活動に活かしてみませんか？

- 開催日** 7月11日(土) 10時～12時
会場 石巻市ささえあいセンター ささえあいホール
講師 いしのまきレクリエーション協会 会長 木村 博 氏
対象 サロン活動やボランティア活動をはじめようと考えている方
 レクリエーション講座を受けたことのない方
参加費 無料
持ち物 筆記用具、タオル、飲み物



令和7年度の様子

申込締切
6月30日(火)

新規採用職員紹介

所属：地域福祉課
名前：^{はたけやま} 富山 はな
趣味：読書



一日でも早くみなさまのお役に立てるよう頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

所属：地域福祉課
名前：^{さとつ} 佐藤 ^{ちなつ} 千夏
趣味：海外の料理動画を見ることなど



みなさんからたくさんのご意見を学び、地域へ貢献できるように自分らしく頑張ります。

おらいのアイドル

いしのまき社協だより ⑧



住吉地区
すえなが 悠結ちゃん



山下地区
ほそかわ 珠妃ちゃん



蛇田地区
さとう 暖真ちゃん



蛇田地区
はやさか 翠色ちゃん



渡波地区
きむら 綸花ちゃん



桃生地区
たかはし 結菜ちゃん

石巻市内にお住まいの、3歳くらいまでのお子さまの写真を募集しております。おらいの（私の家の）かわいいアイドルを、ぜひご紹介ください。掲載内容については、「お子さまの写真」、「お名前（よみがな）」、「お住まいの地区名」です。

（写真データサイズは5MB以内）

※ご好評につき掲載までに時間がかかる場合があります。お子さま一人1回限りの掲載となりますので、ご了承ください。

また、兄弟や姉妹での応募の場合、1枚の写真と一緒に写っている画像をお願いします。

【お問い合わせ】 本所または各支所まで、電話かメールでご連絡ください。メールアドレス：honsho@ishinomaki-shakyo.or.jp



↑応募はこちらから

ありがとうのカタチ

ひろがる善意の輪 令和8年2月1日～令和8年3月31日までの受付分

●石巻支所

- ・石巻アゼリアクラブ支部 様
- ・まーくんとKazuki 様
- ・ギャラリーカフェ・ヌーン 片岡多美子 様
- ・国際ソロプチミスト石巻サン・ファン 様
- ・杉本岩夫 様
- ・知念美佐枝 様
- ・尾形芳雄様
- ・マイメモリー想 様
- ・龍ヶ崎市社会福祉協議会 様
- ・ふるさとコンサート実行委員会 瑞穂あけみ 様
- ・匿名7件



●河北支所

- ・佐々木律子 様
- ・小関清 様
- ・三輪田上区福寿会 様
- ・川の上老人クラブ八雲会 様
- ・河北地区民謡民舞同好会 様

●河南支所

- ・大番所契約講 様
- ・高橋正義 様
- ・宮城県退職公務員連盟河南支部 様



●みどり園

- ・石巻東ロータリークラブ 様



●令和6年度能登半島地震災害義援金



みなさまからお寄せいただきました寄附金、寄附物品につきましては、各種サロン助成等や地域福祉事業に活用させていただいております。ご寄附につきましては随時受け付けておりますので、みなさまからのあたたかいご支援をよろしくお願いいたします。

石巻市社会福祉協議会 各支所 お問い合わせ先

総務課	〒986-0825 石巻市穀町15-2
地域福祉課	☎0225-96-5290 FAX 0225-96-5223
ボランティアセンター	
生活支援課	
公営住宅等	〒986-0032 石巻市開成1-26
見守り連携室	☎0225-23-3911 FAX 0225-23-3912
河北支所	〒986-0132 石巻市小船越字山畑417-54 ☎0225-62-1077 FAX 0225-62-1079
雄勝支所	〒986-1333 石巻市雄勝町雄勝字下雄勝12-42 ☎0225-61-3011 FAX 0225-61-3022
河南支所	〒987-1101 石巻市前谷地字黒沢前35 ☎0225-72-3725 FAX 0225-72-2408
桃生支所	〒986-0313 石巻市桃生町中津山字八木157-1 ☎0225-76-1020 FAX 0225-79-1018
北上支所	〒986-0202 石巻市北上町橋浦字大須215 ☎0225-67-3025 FAX 0225-61-7024
牡鹿支所	〒986-2523 石巻市鮎川浜清崎山7 ☎0225-45-2684 FAX 0225-45-2785

いしのまき社協だよりについてのアンケートにご協力ください

いしのまき社協だよりをご覧いただき、ありがとうございます。みなさまに身近な福祉情報をお届けするために、アンケートへのご協力をお願いいたします。

【回答期限】

令和8年5月20日(水)～6月30日(火)

【回答方法】

右の二次元コードを読み取りご回答ください。

